生命維持命令！

紗谷野　染流

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
生命維持命令！

【Ｎコード】
Ｎ３１０６Ａ

【作者名】
紗谷野　染流

【あらすじ】
家を失った女が明日を目指して今日を生き抜く青春（！？）サバイバル・コメディー

序章

「愛内さんの家から火がでたぞーー！」

いつもの様に家に帰ったら……

家が燃えていた。

今日はいつも通り学校に行き帰り道で占いをしてもらって、三個百円のからあげを頬張りながら鼻歌を歌って帰った。

……それだけ。なのに何故私の家が、…マイホームが燃えているのだろう？

明かりの前で暖を取る様にして、愛内と呼ばれる女は少しの間今日の自分の行いを思い返した。…しかしそれは何時まで経っても思い返す作業のままであった。

思い当たらない。特に変な行動をとったつもりは無い。

…！まさか昼休みにビーフシチューを食べたから、クリームシチュー愛好家に報復されたとか！？成る程、ありえるぞ！

…いや！休み時間にプリンを食べたせいかもしれない！それを見たヨーグルト党の人がそ…

…愛内が冴えた思考を巡らしているうちに炎は消されて野次馬も帰り、周りには大量の折れた木材があるだけになった。

今日は終業式の前日、明後日からは殆どの高校は長く楽しい夏休みに入る。勿論愛内の学校もだ。

「明日どうしよう…」

愛内は毎日電車で登校しているが定期券は持っておらず、多少は中身のある財布や銀行の通帳、衣類なども全てまとめて今回の火災で熱エネルギーに変換された。

なので明日の終業式の出席はもとよりこれから1ヶ月生き抜けるか

どうかも怪しいのだ。

これは、一人の女による都会での生き残り（サバイバル）をかけた戦いの記録である。

序章（後書き）

どうも、紗谷野と申します。学校などで少し空いた時間を使って書いていますが疲れますね、コレ。
寝る前とかも書いちゃうんで段々寝不足に……。
御感想頂ければ幸いです。

紗谷野でした

愛内と田中さん

生暖かい風が通る夏始めの堤防の上、ゆっくりと動く一つの人影があった。
…愛内だ。
終業式の前日に瞬く間に住処と財力と気力と占いを信じる心を失った彼女は、行くあても無くただ歩いていた…。

このままだと今日は野宿になりそうだ。…考えてみればこれが初野宿だな、と愛内は思う。
それと同時にヨーグルト党の過激派の代表者、田中さんの名が脳裏によぎる。
愛内の脳内探偵団の調査ではもはや犯人は田中さんに断定されたらしく素顔、年齢、性別等、全ては謎のベールを被って沈黙を守っている。田中さんの正体は?そして田中の奥に潜む巨大な悪の組織とは!?　次週もこの時間、このチャンネルで合おう!

…スイマセン病気なんです…。

…とか考えながら上流側にしばらく進むと橋が見えた。橋の下は雨もしのげるし人目に付かない、寝るのに丁度良いだろう。

「絶対住んでるよ…これ…。」
遠くからは何も見えなかったが近よると橋の下は生活用の備品で一杯だった。
正確には鍋、毛布、壷、箱、鞄…位しか見当たらないが、何一つ持っていない愛内には宝の山に見えない事もない。
…だが鍋が火に掛かっている。ここには既に住人がおり、しばらく

すると戻ってくる…という意味だ。愛内は招かれざる客かもしれない。
…愛内はしばらく考えて…っていうか既に毛布の中で丸くなっている。解説をも裏切るとは…この女、もしかするともしかするかも知れねぇなぁ（後半簡略可）

「……。」

余程疲れていたらしく、すぐに愛内は眠ってしまった。
…ちなみに明日は終業式である。

愛内と田中さん（後書き）

いや、頑張りましたよ。もっと長くしたかったんですが勉強があるので…
テスト中なんですよ…

紗谷野でした

村野と無礼者（前書き）

エピローグ編の最終回です。
が、まだ続きま～す♪。

村野と無礼者

こんなに気持ち良い朝は何日ぶりだろうか？川のせせらぎと共に鳥の鳴き声が聞こえる。温度良好、体温安定、血圧上昇…うん、最高だ。さぁ、立ち上がって

…人がいた

「えっ、え？なに？誰？ああッ！田中さん！？うそ、本物？え…う、うわー！！スゴい凄いすごい！田中さんだぁー！あ、まさか私の命を！？うわー！こえー！でも格好ええー！あ、サインもら…」殴られた

太陽が頂点を目指し登る昼前に殆ど人影の無い堤防の橋の下、向かい合う様にして座る二つの人影があった。
一つは愛内の物で、一つは高校生ほどの男の物だ。男の背丈は標準で、愛内よりも少し高い程度。
「…、つまり金も家も無くして、行く宛もないから歩いてたら丁度良く毛布があって、疲れたから寝た…て事、か？」
「そうなるね。」
そうなるねって…一応人の布団勝手に使ったんだから、
普通最初に謝るんではないだろうか…せっかく謝りやすい様に話の流れを調整してたのに見事その頑張りも無駄に終わってしまった。
「ねぇ君。」
女が少し声を弾ませて問い掛ける。
なんと不法侵入者に『君』呼ばわりされてしまうとは…。
幼く見えるのだろうか？少し残念…。
…いや、まてよ！実年齢より若く見られてるだと！？何という事だ、俺の青春はまだ終わってなかった！なぜって？どうしてかって？そ

れは俺、まだ若いから！！人生長いから！自分で言うのは簡単だけど、他の人が言うんだから間違いない！↑（もう古いのか！？）俺若い！俺若い！俺（以下無限機関突入）

「おぃ、」

いつの間にか女が隣に座っていた。移動にも気づかないとは、俺の集中力も大した物だ。…決して妄想壁という訳ではない。

「君の名前はなんていうの？」

そういえば人に名前を聞かれるのは久しぶりだな、と思いつつ

「…村野。」

正直に答える、嘘をつく必要はない。

「私の名前は愛内。」

「そうか。」

聞こうと思ってたのだが先に言われてしまった…。名前を聞かないのは失礼だっただろうか？いや、こいつは不法侵入した上、初対面でタメ口を使い俺を君呼ばわりした様な奴だ。礼儀は要らない…多分。

「宜しくね。」

「あ？…、あぁ」

愛内の手を取り握手する。

…この握手が今後の人生を変えてしまうなんて…

この頃の俺は考えもしなかった…

でも少しだけ予感はしていた。

今日は一学期最後の登校日である

村野と無礼者（後書き）

これから愛内と村野の生き残りをかけた↑（大げさ）生活が始まります。乞うご期待！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3106a/

生命維持命令！

2010年10月28日04時29分発行